

日本古代史・考古学の最前線を2冊同時刊行

国内外の文献史学・考古学研究者が結集し最新論考40本を収録。
王権に仕奉する「政事」を共通の切り口として、空間・文字文化・
支配の展開をテーマに古代国家の諸問題を明らかにする

吉村武彦 編 (明治大学名誉教授・日本古代史) 2026年5月20日 同時2冊刊行

古代の政事空間と文字文化 —前方後円墳・宮都・ことば—

定価 12,100 円 (本体 11,000 円+税 10%)

A5 判・上製・カバー装・552 頁 ISBN978-4-8406-2656-9 C3021 ¥11000E

政事(まつりごと)の空間としての古墳・宮都・官衙 第一部と第二部を通じ、前方後円墳を単なる墓ではなく「政事の空間」として捉え、さらに飛鳥時代から平安宮に至る宮都、大宰府や城輪柵といった地方官衙の構造や新羅の宮庭を分析。これらがどのように政治的な拠点や儀礼・饗宴の場として機能し、変遷していったかを考察。

古代社会における文字文化の広がり 第三部では、木簡、墨書土器、文字瓦、印章といった多様な出土文字史料を検討。大化前代の「オホマヘツキミ」、ミヤケなど重要テーマに加え、村落や民衆のリテラシー形成などにも言及。あらたな古代史資料も紹介。

古代の政事と支配の展開 —律令・地域・対外関係—

定価 12,100 円 (本体 11,000 円+税 10%)

A5 判・上製・カバー装・568 頁 ISBN978-4-8406-2657-6 C3021 ¥11000E

律令制と礼制の具体的・多角的な検討 第一部では、戸の等級制度や田圃、軍団といった律令制の行政実務の具体像から、女帝・皇太子制に関わる品階の意味、女御制の成立、さらには内臣・中衛や兵衛・近衛といった衛府の変容まで、律令国家の根幹をなす制度と礼制を幅広く論じる。

中央権力と地域社会の関係性 第二部では、伯耆・明石・紀伊などの地域における王権の展開や国造の役割、また東北地方での俘囚・田夷の出現と帰服蝦夷に班田できない地域社会の特質との関係、日向の俘囚と東北地方の関わり、平安初期の救急院の運営実態、太政官符の宣者の再検討など、中央の支配が地域社会でどのように具現化されたかを分析する。

東アジア情勢の中での国際外交と対外認識 第三部では、5～6世紀の倭国と百済の外交関係を考古学・文献学の両面から考察するほか、扶南(東南アジア)から百済を経由した仏教伝播、唐滅亡後の対外認識、刀伊来襲の背景にある国際情勢など、日本古代史を東アジアの広い枠組みで捉え直す。

はじめに (論文要旨)	◎吉村武彦
第一部 前方後円墳という政事空間	
1 前方後円墳の到達にみる東海道東縁の実相	◎白井久美子
2 古墳における葬送儀礼とその変容—儀礼からみた中心と周辺—	◎辻田淳一郎
3 崇神朝と古墳	◎下垣仁志
4 六世紀前葉～中葉の環境変動と王墓 (再論)	◎清家 章
第二部 政事の拠点としての宮都・官衙	
1 小墾田宮から藤原宮へ—飛鳥時代倭王宮の諸段階—	◎積山 洋
2 摂津職と難波京	◎磐下 徹
3 平安宮武徳殿の儀礼空間と成立過程	◎網 伸也
4 大宰府の政事と官司—大宰府十二司と「所」—	◎松川博一
5 饗宴の場としての政庁機能—城輪柵政庁の空間構成と変遷—	◎荒木志伸
6 新羅宮庭の構造と政事	◎金 在弘
第三部 古代社会と文字文化	
1 大化前代の大臣・大連とオホマヘツキミ (覚書)	◎吉村武彦
2 木簡からみた筑紫のミヤケと官衙	◎酒井芳司
3 日本古代の地方における書字行為をめぐって	◎中村友一
4 賦役令調皆随近条と荷札木簡	◎市 大樹
5 子 氏—特別史跡・ユネスコ「世界の記憶」と新羅系渡来氏族—	◎須永 忍
6 土器に印を捺す意味—「美濃国」印施印土器の検討を通じて—	◎矢越葉子
7 『和名類聚抄』にみる「駅家」—武蔵国の店屋駅をめぐって—	◎荒井秀規
8 古代村落・民衆のリテラシー —“象徴”としての文字の受容から“情報伝達ツール”へ—	◎宮瀧交二
9 押小路本『官位相当』所収記事の検討	◎小倉慈司

古代の政事と支配の展開 —律令・地域・対外関係— 目次

はじめに (論文要旨)	◎吉村武彦
第一部 律令制・礼制の実像	
1 律令制下の戸の等級制度	◎里館翔大
2 田図の形式について	◎服部一隆
3 西海道における軍団の変遷に関する考察—六国を中心として—	◎五十嵐基善
4 律令制初期における品階の政事的意義—八世紀の女帝や皇太子制との関連性—	◎坂口彩夏
5 女御制の成立過程	◎桜田真理絵
6 内臣と中衛・兵衛	◎十川陽一
7 平安中期における近衛将監の変容	◎中島皓輝
第二部 地域社会における支配の実態	
1 律令制国家形成期の王権と地域社会—伯耆国における国府成立の歴史的前提—	◎森田喜久男
2 江沼臣氏に関する再検討	◎笹川尚紀
3 明石国造と明石評の成立—評の成立と太寺廃寺—	◎三舟隆之
4 紀伊行幸にみる律令制下の紀伊国造	◎大川原竜一
5 俘囚・田夷の出現と班田制	◎伊藤 循
6 日向国の俘囚—日向国宮崎郡の東北系遺物を出土する遺跡と墨書・刻書土器—	◎柴田博子
7 九世紀の救急院と地方社会	◎有富純也
8 太政官符の宣者と太政官政務—藤原良房・藤原冬嗣・藤原仲麻呂を中心として—	◎川尻秋生
9 重源と東大寺領大部荘の開発	◎ジャネット・グッドウィン (原著) 佐々木憲一 (翻訳)
第三部 古代社会と国際交流	
1 考古学からみた百済と倭国の外交関係—五～六世紀を中心に—	◎禹 在柄
2 「継体紀」の史料批判—「四県割讓」記事と近江毛野臣伝承—	◎仁藤敦史
3 南伝仏教の伝播における扶南と百済の役割 —『日本書紀』の五四三年の記述を出発点として—	◎ファミ・レ・フィ
4 『本朝文粹』と日本の対外認識—唐滅亡後の日本の対外関係と対外認識—	◎田中史生
5 刀伊来襲の国際的前提	◎河内春人